

会 議 要 旨

会 議 名	令和5年度 館山市コーラル会議
開 催 日	令和5年6月29日（木）午前10時～11時35分
開 催 場 所	館山市役所4号館 期日前投票所
出 席 者	<p>[委員(敬称略 50音順)]合計12名 青木 鉄弘 石井 敏宏 石渡 秀嗣 井田 友海 栗原 史帆 庄司 友之 鈴木 奈美 館山警察署警務課長 石井 薫 出口 洋子 長尾 典子 西村 勝利 吉田 育世</p> <p>[市] 館山市長 川崎市民協働課長、和田副課長、當麻主任主事、吉田主事</p>
公開・非公開の別	公 開
傍 聴 人 数	0名（定員3名）
会 議 内 容	<p>1. 開会 2. 市長挨拶 3. 委嘱状交付 4. 自己紹介 5. 第13期コーラル会議会長及び職務代理者の選任 互選により、第13期会長に吉田育世委員、職務代理者に西村勝利委員を選出した。</p> <p>議事進行 吉田会長</p> <p>6. 議事 (1)「第4期館山市男女共同参画推進プラン」の令和4年度取組結果について 【事務局より】 ・令和4年度の取組内容や進捗状況について報告。 総事業数116に対し、A評価（おおいに取り組んだ）又はB評価（取り組んだ）と評価した事業は81事業、C評価は35事業だった。</p> <p>(事務局)</p> <p>【ご意見・ご質問】 ●全自治組織への女性役員の積極的な登用のための依頼は良いことなので、毎年続けてほしい。 ●以前、話し合った広報紙へDV相談窓口を掲載することについて、その後どうか。 ⇒DV担当課に相談したところ、市に専門の相談員がいないことから、今のところ掲載の予定はないとのこと。こういった意見があったことは担当課に伝える。 ●警察では24時間DV対応を行っている。警察署や110番通報でDV対応を行った場合は、市へ連絡している。</p>

<p>(事務局)</p>	<p>⇒警察、市、県、保健所、病院等、どこに連絡をしても、お互いに情報を共有し、対応している。</p> <p>●事業によっては、いろいろ取組を行ってもB評価のところがあるのはなぜか？</p>
<p>(事務局)</p>	<p>⇒担当課の判断で、目標とするところまで達しなかったということ。</p> <p>(2) 令和5年度審議会等における女性委員割合の調査結果について</p> <p>【事務局より】</p> <p>・館山市の審議会等における女性委員割合は、令和5年4月1日現在29.18%（昨年度比0.34%減）。</p> <p>昨年度より若干減少した一因は、委嘱替えにより、AランクからBランクに下がった審議会等があったこと。しかしながら、ランクが下がった審議会等も、市が主体的に委員を選出できる部分については、女性委員が30%を超えるよう選出しているという報告を受けている。</p> <p>【ご意見・ご質問】</p> <p>●女性委員が多い審議会等については、会長または副会長のどちらかを女性にするよう周知をしてはどうか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>⇒LGBTへの配慮など、性別については慎重に行いたいと思うが、機会を見つけて周知したい。</p> <p>●人がたくさん集まる会議では、男性が方向を示し、女性が話を広げるという場面をよく見る。会長・副会長に男女がいるというのは会議を進行するうえで良いのではないか。</p> <p>●自分の子どもが通う小中学校のPTA会長はずっと男性。男性の方が見栄えがするのではないかという固定観念がある。</p> <p>●学校では、学習指導要領に「男女平等」「男女が協力して家庭を築く」等が明記されており、授業で行っている。</p> <p>●館山市コーラル会議委員になってから、無意識に自分の考え方を言葉にしないよう、意識するようになった。同時に、わかっているのになかなか変わらない自分にもどかしさを感じる。</p> <p>●心に残る話というのは、話す側と聞く側の考え方の波長が合うから心に残る話になるのであって、違う考えを持っている人にとっては差別やジェンダー平等に反することになるのではないか。</p> <p>大勢の前で話をする場合は、先にチャットGPT等を活用し、一切の差別用語を除いた考えを確認するのも一つの方法だと思う。</p> <p>●世界基準の性教育や性の多様性については、大人の学び直しが必要。考え方を変えるのは難しいが、常に頭の片隅にあるようになると良いと思う。話し合える場が必要ではないか。</p> <p>●休日の「元気な広場」には男性が増えた。</p> <p>●今の時代の父親は、平日は朝早くから夜遅くまで仕事をし、夜泣きする子どもをあやし、土日は子どもを遊びに連れ出す。これは平等なのかと疑問に思うこともある。同じ境遇の人たちが話合える、例えば「パパの会」等も必要ではないか。</p>

- 自治会の役員は「男は仕事、女は家庭」という教育で育ってきた高齢者が多いと感じる。女性が役員になるという事は、そういった、全く考え方が違う人達をまとめるという、とても大変なことであると思う。
- 一人暮らしの高齢者というのは、地域の活動などの声が掛からず、孤立しがち。でも、館山をよくしたいという思いはある。結局は一人一人の自主性であり、教育や意識改革が必要である。
- 欧米と比べると、日本は制度そのものが違う。欧米は事実婚が多く、それぞれが独立しているが、日本は「年収130万円（または103万円）の壁」「国民年金第3号被保険者」など固定的役割分担にしようと感じられる制度がある。特に子どもが生まれてからは、二人で残業が多いと家庭がパンクしてしまうので、親の一人が働き方を変えることにより、年収を抑えることが多い。
- 国会議員や市長では難しいが、地方議員は自分で時間を管理できるため、もともとは女性議員が働きやすい制度だと思う。
- 卒業式や入学式の送辞や答辞は女の子が増えている。子どもの方が固定的役割分担意識が薄いように思う。
- 恐らく館山市で初めてだと思うが、今年はある地区で、おまつりを女性がトップで取り仕切る。
- 誰か一人女性が出てきたら、その人を中心に女性同士の誘い合いがあれば女性が増えていくのではないかな。

（3）令和5年度事業計画について

【事務局より】

- ・6月16日、「多様な性の理解促進」について SNS による市民への周知および館山市全職員への啓発。
- ・6月中旬、「男女共同参画週間」について広報紙と SNS による市民への周知および館山市全職員への啓発。
- ・町内会とコミュニティ委員会にLGBTについての啓発物を配布。
- ・千葉県男女共同参画地域推進員事業について
 - ◆中学校出前講座
南房総地域内の2校でそれぞれ開催予定。

【千葉県男女共同参画地域推進員より発言】

- ・寸劇が主な活動。地道な活動だが、結果はついてくると思う。
- ・日々の生活の中に、男女平等ではないことがあるのだという啓発になる。
- ・中学生の意見を聞いて、今でも半分くらいの家庭が男女平等ではないことを知った。

【ご意見・ご質問】

- 寸劇は中学生だけでなく、保護者にも見てもらいたい。

<p>(事務局)</p>	<p>7. その他</p> <ul style="list-style-type: none">・いろいろな立場の人が集まり、話せる場があるというのは、とても良いこと。・コーラル会議としての事業ではないが、講演会を行いたい。どういう内容でどのような対象者にしたらよいか、何か案があればいただきたい。●中高校生など、これから壁にぶつかるであろう世代に話ができたらよい。●20年後、30年後が変わるように中高校生にできたらよいと思う。●館山市は高校を卒業すると、若者が出て行ってしまう傾向がある。「仕事における昔と今の違い」「妊娠・出産を経た女性のキャリア継続」等、経験を基にした話を聞きたい。●講演は興味がある人にすることが効果的。希望制にして、例え申込みが10人、20人、30人と少なくとも、興味がない生徒何百人にするよりもずっと効果があると思う。 <p>⇒教育委員会に限らず、何か若者が集まる機会を探して検討し、相談したのち、詳細が決まったら、委員に連絡する。</p> <p>8. 閉会</p>
--------------	---